

言語表現史 a (小説)

【授業概要】

文学作品の表現は、その時代時代の文学が直面した問題に対処すべく、つねに新たな試行を繰り返しながら変化を遂げてきた。この授業では、近・現代の小説表現の変遷を史的に展望しつつ、それぞれの表現に見られる方法意識や問題意識について、講義形式で学ぶ。

【テキスト】

授業内でプリントが配布されます！
枚数が多いのでテスト前にはしっかり復習しましょう◎

この授業は、小説表現のさまざまな方法をただ学ぶだけではなく、時代や社会、また作家自身の経験が文学に与えた影響について、そして小説の歴史にも触れます。
小説が好き、小説に興味がある、小説について詳しく学びたい人におすすめです！

一人称・三人称の回と、分身・変身小説の回の内容は少し複雑で混乱しましたが、とても興味深いものでした！授業内で取り上げる作品も面白いものばかりです！

担当
永井聖剛先生

わかりやすい！

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 近代社会の成立は文学空間をどう変容させたのか
- 第3回 言文一致とはどのような思想か
- 第4回 1910 年前後に起こった転回とは何だったか
- 第5回 内面と外面、どちらが大事か
- 第6回 都市化は文学表現に何をもたらしたのか
- 第7回 探偵小説はいつ、どうして生まれたのか
- 第8回 私小説の行き詰まりは何を産み出したか
- 第9回 無意識の発見は文学に何をもたらしたのか
- 第10回 語りの近代化とはいかなる事態だったか
- 第11回 一人称と三人称はどう違うのか
- 第12回 一人称は三人称よりも書きやすいのか
- 第13回 小説を書く小説家の小説が多く書かれるのはなぜか
- 第14回 分身小説・変身小説の「現実らしさ」とはどのようなことか
- 第15回 まとめ

<期末に論述形式のテストあり！>

※配布されるプリント、自筆のノートなどの持ち込み可◎